令和元年度　第１回南砺市利賀地域山村留学定住推進協議会会議録

１　日　　時　　令和元年６月４日（火）　午後６時～午後７時３０分
２　場　　所　　南砺市役所　利賀行政センター　３階大広間
３　出 席 者　　委員１４名（欠席３名）、アドバイザー３名、事務局５名、商工会１名
　　傍聴者なし
４　協議事項　（１）山村留学定住事業のこれまでの取組について
　　（２）源流の森と山村の暮らし体験キャンプの実施について
　　（３）今後の事業展開について

◎会議録

事 務 局：　ただ今から第１回南砺市利賀地域山村留学定住推進協議会を開催いたします。委員の皆さまには何かとご多用のところご出席いただきありがとうございます。本市におきましては、平成２６年度より山村留学につきまして、調査及び研究を行っております。平成２８年度にこの利賀地域山村留学定住推進協議会を設置し、委員各位の意見をいただきながら利賀地域山村留学の円滑な運営と体制を推進してまいりました。今回委員の皆さまの改選の年となりまして、１０名の方々が変更となっております。再任の方も引き続きよろしくお願いいたします。新しい委員名簿はお配りしておりますので、ご確認をお願いいたします。また本日アドバイザーといたしまして山村留学の運営を委託しております公益財団法人育てる会より常務理事の秋山事務局長さん、邑上指導員さんにお越しいただいております。それでは開会にあたりまして、松本教育長よりご挨拶をいただきたいと思います。

教育長：　この４月から教育長になった松本です。よろしくお願いいたします。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。一昨年昨年は夏、さらに今年は冬の短期キャンプもやるということで少しずつ板についてきたのかなと思います。また南砺市内からも参加者にとおても、全国から集まる子どもたちにとって価値のあるものになるよう、みなさんで知恵を出し合っていただきたいと思います。最後は長期となることを狙って定住につながればいいと思います。そして利賀小と利賀中の子どもたちや地元のエネルギーになっていけばいいと思います。今日はよろしくお願いいたします。

事 務 局：　ありがとうございました。それでは会長さんよりご挨拶をいただきます。お願いいたします。

会　　長：　お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。会長という命をいただきまして、事業をしっかりと前に進めたいと思います。
みなさんのご協力をいただきながら頑張っていきたいなと思います。

事務局：　ここからの進行は会長さんにお願いいたします。

会　　長：　協議事項に入らせていただきます。山村留学定住事業のこれまでの取り組みについて、事務局から説明をお願いします。

事 務 局：　―事務局より山村留学定住事業のこれまでの取り組みについて説明　―

会　　長：　ただいま事務局から説明がありましたが、このことについて委員のみなさまから質問等があればお願いいたします。

次に移ります。源流の森暮らし体験キャンプの体験について、現段階の申し込みについて南砺市商工会利賀支部より説明をお願いします。

商 工 会：　―　商工会利賀支部より申し込み状況について説明　―

会　　長：　現段階で募集については、大変うれしい状況になっています。いろんな意味で高い評価を受けていることがうれしいと思っています。

委 員 A：　キャンプの広報の方法はどのようにされていますか。全国からきているので、来年度に生かせたらと思います。

商 工 会：　私どもの方の立場としては、山村留学等をフェイスブックやインターネットホームページで発信しています。またこのチラシを交流のある地域や県や市の関係機関に持っていくことで、県外に発送しています。ただ私どものところの反応は薄く、多くは育てる会さんのホームページをみられる方からの応募です。

アドバイザー：　私どものほうでやっているのは、１つはホームページに掲載すること、またこのチラシを毎月月刊誌の「育てる」という機関紙の４月号というのが、南砺市とは別の育てる会が直接でやっている夏休みキャンプ特集というのにチラシを入れて全国に約４０００部発送しています。そちらを見たという方ももしかするといるかもしれないと思います。

会　　長：　育てる会の広報が大きな効果を上げているということです。
次に、育てる会より、内容について、説明をお願いします。

アドバイザー：　―　育てる会より内容について説明　―

特に農家民泊等が人気があり、農家での農作業体験や地元の子どもたちとの交流が一番大事だと考えております。都会の子どもと地元の子どもが交流できるメニューを精一杯入れていきたいと思っている中での活動スケジュールです。

会　　長：　それでは委員の皆さまから、ご意見をいただきたいと思います。

校　　長：　小学校では７月２３日から２６日まで武蔵野市から子どもたちが来て交流します。２５日は交流することは難しいかもしれません。２９日から３１日は学校としての行事は何もないので、時間はゆっくりとれると思います。利賀小は少人数なのでいろんな子どもたちとの交流はとても必要だなと思います。

アドバイザー：　計画的には、６日目は人数が少なく、活動によってはたとえば地元の子どもたちに参加してもらうのでもいい。事前に把握して調整できれば、個人レベル

かもしれませんが、こちらとしては歓迎したい。ご相談の地域の方からこれに行きたいということであれば調整したい。安全な活動ができて、人が増えても問題ないような活動をしたいと思っています。

商 工 会：　昨年も地元の小学生との交流では、結構集まっていただいた。

会　　長：　またいろいろと話し合いをする機会を設ける必要がありますね。地元の PTA など、子どもたちとの関係もあります。

アドバイザー：　子どもたちについては、学校あるいは PTA を通じてお知らせ・募集をしたい。

商 工 会：　特に昨年千束橋のところで子どもたちが川でライフジャケットを着て２０ｍくらい浮いて川で遊ぶという活動があった。それは利賀の子どもも非常に喜んでいました。僕らも山に住んでいながらそんなことはしたことがなかったので楽しそうでよかった。途中からおろろが出てきて「きゃー！きゃー！」と言って大泣きしていました。その子の後の感想を見ると「楽しかった。また来たい。」と書いてあり、それも有意義な体験になったんだと微笑ましく思うことがありました。強烈な印象もありますがそれ以上に特殊な地域で活動したことが楽しかったと思います。活動についてはまだ決定ではないので、ほかにいい意見があれば聞きたいと思います。

委 員 B：　各種団体会長という立場で呼んでいただきました。せっかく利賀にお越しなので、巨木を見せに行ったりとか、ツリークライミングで木に下がって作業するようなビッグショックで飛ばしてからロープで木登りをすることもやったりします。今年でなくても利賀の森に入れる機会を作っていただければいいなと思います。

？

アドバイザー：　今年は無理だが、山の活動も考えておりますので、ぜひ取り入れて行きたいなと思います。

委 員 C：　スターフォレストの横に保育園があるのですが、昨年は家からスターフォレストに遊びに行かせていただき、留学生のお姉さん達にとても可愛がっていただいた写真があります。保育園は夏休みと関係なくやっていますので、たとえば保育園の園児と山村留学に参加しに来ている子たちと活動するなど、４、５人ですが保育園との交流もあると子ども達にとってもいい刺激になるのではないかと思いますので、また検討お願いします。

アドバイザー：　ぜひ検討していきたいと思います。

委 員 D：　農家泊をされた委員Ｅさん、民泊受入れをされた委員Ｆさんの意見を少しおきかせ願います。

委 員 E：　事前に虫よけスプレーなり刺された後の軟膏など、参加者に事前に持ってくるように言えばいいのか、それとも事務局で用意しておくのか対応を決めておく必要があります。おろろは綺麗な環境にしかいない等、事前に説明をして、いたずらに恐怖心を抱かないように対策をしたらいいと思います。

アドバイザー：　事前の説明会でお話するようにします。

去年は特別多かったのですか？

商 工 会：　去年は時期が２週間ほど早まってキャンプと発生する時期とが重なった。

委 員 E：　キャンプのタイトルにもあるように、源流、家の後ろや前に沸いている水に興味を持って、朝洗面所へ行かずに、わざわざそこの湧き水に行って顔を洗ったりしていた。都会の子どもたちにはそこの湧き水が新鮮だったのではないかと思います。

アドバイザー：　利賀は山ですが、森と水の都だなと思います。どこに行ってもきれいな水があり、美味しいです。都会の子は川の水は汚いものだと思っていますからね。

委 員 F：　山村留学という言葉を初めに聞いたときには、私の実家は細島にあり、両親が都会の生徒を受け入れたときがありまして、やんちゃな子だったが、山、川、水、虫、自然がとても好きだった気がします。昨年、実家の民泊で名古屋の女学生を受け入れたときに、大人の方だったので一緒に食事を作ったり、民謡に触れたり、山村の食べ物を作っても喜んでくれたり、花火を思いっきりやれたようでした。都会でも味わえないようなことを子どもでも大人でも新鮮で、楽しんだり、一緒に参加している友達といい繋がりができたりしたので、利賀村に対して、いい印象を持ってくださった。小学生のお子さんだったらもっと鮮明にいろいろ学んだり、吸収できるのではと思います。百瀬や坂上の川はこの時期おろろは出てきてしまいますが、対策も考えながら楽しい思い出がいっぱいできるキャンプになればなと思います。

会　　長：　今ほどいろんな意見を頂きましたが、また微調整し、可能なことがあれば、盛り込んでいただいて、よりよいスケジュールなればいいと思います。

それでは、「市内参加者の募集」につきまして、事務局より説明をお願いします。

事 務 局：　―　事務局より市内参加者の募集について説明　―

会　　長：　反応はどうですか。

事 務 局：　今のところ応募はありません。

会　　長：　今後どのようにして市内の子ども達に周知しますか。

事 務 局：　募集期間が６月１４日まであります ので、様子を見ながら考えます。

アドバイザー：　―昨年度の５名は高学年でしっかりした子が多く、リードしていただき大変心強く思いました。みなさんの親戚の子でもいいのでぜひ紹介していただきたい。

会　　長：　行程に利賀の子どもたちとの交流は入っていますが、南砺市内の子どもたちとの交流も大事なことです。市内の、利賀地域以外の子供が留学生になって来ていただけることも大事なことです。

アドバイザー：　島根県で人口３万人の市の中の５００人規模の地区で山村留学事業をやっているのですが、１泊２日、２泊３日の事業で市内の子がたくさん来て、同じ市でこんな地域があったのかと驚いて人気があります。今すぐではないですが、長期事業を始めることが出来れば、南砺市でも山村の良さや、そこでの生活を理解して、利賀地域の子どもと接していただける事業をできればと思います。また行政サイドとしてもそのような事業の必要性があるのではと思ってお

ります。

会　　長：　それでは次にいきます。冬季のキャンプの実施について育てる会より説明をお願いします。

アドバイザー：　―　育てる会より冬季のキャンプの実施について説明　―

委 員 G：　夏に竹の箸を作ったのに、また竹の箸作るのですか。昨年のリピーターが６、７人いました。昨年は竹の箸作っていないのですか。

アドバイザー：　作っていますが、竹の箸はずっと同じものは家で使えませんし、やはり技術が向上します。1回目は口に入ると痛いのではないかと思うくらいの箸がだんだん上手になります。

委 員 G：　リピーターの人はまた同じことかと思わないでしょうか。

アドバイザー：　何回しようがうまい子は今回で上手になったから家族の分も作ろうという人もいます。この竹の箸作りは育てる会の活動の全てでやっています。冬は冬で集まったメンバーが最後解散するまでみんなで協力して活動を終わらせようという意味で箸を作ります。箸というのは毎日自分が食事で使うものですので、食事をしないと生きていけない、という誓いの意味でやっています。そういう話を活動の前に指導者の方からしますので、毎回作ることに問題はないと思います。

委 員 H：　箸はモウソウダケで作られるのですか。利賀にはモウソウダケはないので、他の材料を使うのは難しいのですか。

アドバイザー：　もちろんあります。昔秋田でしたときはアキタスギを使いましたし、地元のこれというものがあれば、それは全然いいと思います。

スギというか木の間伐材でやればいいですが、竹よりすごく時間がかかります。子どもでも1時間くらいで出来るような木を用意していただければ、竹にこだわることなくできればいいと思っています。

委 員 H：　意図はわかるが、全く同じではなく何か工夫して出来ればいいと思います。

委 員 C：　歩くスキーというのは、クロカンのことですか。

アドバイザー：　クロカンです。

委 員 C：　森の探検をするのであれば、自分はいつも輪かんじきなんですけど、その方が歩く順番や、斜面をジグザグに登ることが、後々自分たちで発見できます。スキーだと斜面をおりる時、にバランスを崩してなかなか降りて来られない子もいるのではないかと思います。３５人もいますし、新雪の上を歩くなら輪かんじきのほうが面白いかなと思います。

アドバイザー：　スキーの場合はアルペンとは違って急斜面を滑るとひっくり返るので、ちょっとした斜面を滑って楽しみながら自然を観察しながらできたらいいと思います。全員絶対スキーということはありませんので、輪かんじきも用意していただければ、活動の選択肢が広がるのでいいと思います。

会　　長：　冬のキャンプの取り組みは初めてになりますので、しっかりと内容を固めて取り組んでいく必要があります。みなさんのいろいろなアイデアを、まずは商

工会につなげていただき、そこから育てる会や教育委員会と相談して、より膨らませた案を作っていきましょう。

事 務 局：　今年の２回目の協議会は９月ごろに予定しております。冬のキャンプについて、何かいい案がありましたらそのときにも教えていただければと思います。

会　　長：　次に私どもの最大の目的である長期の山村留学事業に向けて、その展開について事務局より説明をお願いします。

事 務 局：　―　事務局より長期山村留学について説明　―

会　　長：ソフト面とハード面と、現段階ではどのような懸案事項がありますか。

事 務 局：　拠点施設場所の検討ということで、施設を建てるにしても建てる規模、地元の子もそこで遊べるスペースがいるのかどうか、詳しい要件等について検討が要ります。その中で、市としては新たな建物は建てず、今ある建物を利用する方向で進めていきたいと思っています。

このような事業をする際には、市の総合計画の実施計画の中に位置づけが必要です。今現在は、短期のキャンプを行うという位置付けしかありません。新しい総合計画は、来年度からスタートしますので、今年度中にその新しい総合計画において、この長期山村留学推進事業をどのように位置づけるかが大事になってきます。利賀地域にある、どこかの施設を利用させていただく方向で、次のステージに進めないかということを、新しい総合計画に盛り込めるように、協議会等で相談させていただきたいと思っています。いずれにせよ、短期のキャンプだけをやっているわけにはいかないと思っています。しかし次のステージに進むには、いろんなことを整理しないといけないので、次回の協議会でもそういったことのご意見をまとめていただく機会にしたいと思います。

会　　長：　ありがとうございました。拠点施設は新しい施設は困難なので現在ある施設を、どのように利用ができるか、よりよい選択を検討していくことになるかと思います。

委 員 D：　委員 F さんのお話にもあったように、以前の里親制度とこの事業を同じ事業と受け止められ、また負担になることを始めようとしていると誤解している住民がいると思います。この事業では、かつてのように、子どもを一年間ずっと里親宅で預かるわけではなく、一ヶ月の内の大半は拠点施設での生活になるということ、それ以外の時にその子の面倒を見てくれる家庭を募集するということ。利賀にいる間はその家の子どもであるということを理解してもらう必要があります。事業が実施できるように、これから検討していきながら、変化していきながら、利賀村に子供を受け入れることで、地域が賑わうし、またそういったニーズもあることを地域の皆さんにご理解いただきたい。これまでの交流事業によって生まれた効果や与えた影響もたくさんあることも分かってもらいたい。

委 員 I：　この事業は、利賀の子どもが少ないことから、なんとかして都会の子どもたちにもこういったところで生活をしながら、いずれは地域の活性化にもつなげ

ることがねらいです。２、３年やってきてその可能性はあると思います。リピーターとして来てくれる子どもたちがいるということは、私たちにとって心強いし、昨年より今年とつながっていき、大きな広がりになっていけばという思いで我々も子どもたちを受け入れていきたい。地域全体でその思いを共有していけば、いい事業になると思います。継続的に発展させていきたいという願いを持っています。

委 員 Ｃ：　委員Ｉさんがおっしゃったように、山村留学は将来の人口対策に聞こえてくるんですが、来てくれる子どもたち、利賀の子どもたちが一番であってほしい。人口増についてはその次の話。子どもたちが楽しく過ごすことが大切だと思いますが、この事業はそういった理解でよろしいですか。

アドバイザー：　私たちが山村留学をスタートしたのは、子どもたちの生活環境が変わっていって、成長する過程の中で必要なものは何かというと、自然の体験であったり、集団生活であったり、子どもの教育のための山村留学です。しかし教育だけでない山村留学や、地域の活性化のための山村留学など、いろんなものが見えてくるので、複合的にいろんな効果を生む事業だと思います。先程１番２番と言いましたが、関わる立場それぞれにそれは違っていいと思うし、それが合わさって前に進んでいけばいいと思います。

委 員 Ｃ：　趣旨を理解した上で関わりたいなという思いがありましたので、確認いたしました。ありがとうございました。

委 員 Ｇ：　遠回りでもいいから南砺市の、利賀の子どもにとって価値あるものになってほしいと思っています。

アドバイザー：　そういった意味では施設のことですが、人数の少ない学級に何人か来てくれれば学校が活性化するというのであれば、小さな施設でいいと思う。地元の子どもも一緒に学べることも時には必要と思うので、そうであればそのような規模の施設が必要になります。お互いに学び合いながら成長していけたらと思います。

会　　長：　長時間にわたりまして意見いただきありがとうございます。今回いただいた意見を参考にしながらこれからの山村留学定住事業に取り組んでいきたいと思います。これで本日の協議を終了します。

事 務 局：　次回の協議会は９月を予定しています。
　最後に副会長より挨拶をいただきたいと思います。

副 会 長：　私は関係団体会長という立場で関わらせてもらったと思っています。利賀村の歴史から山村留学についていろんな意見が出ました。地域の人の受け皿づくりが大事ではないかと思います。これから十分検討していただきまして一人でも二人でもいい芽が出ればすばらしいことではないかと思っています。地域に住んでいる一人として少しずつサポートしながらこの事業に取り組んでいきたいと思っています。協議会では格段のご協力を賜りたいと思っています。今日はありがとうございました。

（午後７時３５分閉会）